

この冊子は 2023 年度日本郵便年賀寄付金の助成を受けて作製しました。



2023 年(令和 5 年)

日本郵便 年賀寄付金

年次報告

子どもの状況

2022 年 チャイルドラインとちぎのデータから



(認定)NPO法人チャイルドラインとちぎ

はじめに

2023年5月8日から新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、長く続いたwithコロナ生活は新たなフェーズに入ったように感じます。子どもたちの生活を考えると、「マスク」とどう向き合うかは、周囲の目や人間関係とも無関係とは言えず、「人や社会」とどう向き合うか、とも関連するように思います。

この度、松江比佐子前理事長のバトンを受け継ぎ理事長職をお預かりすることとなりました私、福本佳之と申します。本来であればご支援頂いている皆様お一人お一人に直接ご挨拶するところではありますが、まずはこの場を借りてご挨拶申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

「コロナ」という大きな波に目を奪われている間も、新たな教育改革も待たなしで進んできました。「教育は国家百年の計」であり教育改革について私たちもフォローする必要があります。

- 2019年度 「高校生のための学びの基礎診断」実施。
- 2020年度 「新学習指導要領」小学校全面实施・新「大学入学共通テスト」開始。
- 2021年度 「新学習指導要領」中学校全面实施。
- 2022年度 「新学習指導要領」高等学校全面实施。
- 2023年度 「こども家庭庁」が発足。部活の「地域移行」が段階的にスタート。
- 2024年度 「新学習指導要領」導入後初の大学入試。

このように、教育をめぐる環境は激変しています。それは「今」という時代が、日本全体、世界全体で大きな変革期を迎えているのに他なりません。もちろん今回の新型コロナウイルスへの対応一つとっても、誰も経験したことの無い危機の中、難しい判断が続きました。大人の我々に必要なことは、「正解の無い課題に、落ち着いて、事実を認知し、思考し、対話し、苦悩しながらも立ち向かう大人のあり方」です。子どもたちは、誰も経験したことの無いものだらけの社会、正解のない社会を生きていくのですから。

2023年度は「こども家庭庁」が設置され、時の政府は「異次元の少子化対策」を打ち出しています。政府がわざわざ宣言するという事は「対策が遅れている」という裏返しでもあります。

チャイルドラインとちぎは、子どもの権利条約の理念のもと、「子どもと大人と対等な存在であり、社会をつくるパートナー」という子ども観を大切に、「子どもは社会の鏡であり、宝である」ことが当たり前となる社会の実現に向けて活動していきます。今後ともご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

認定 NPO 法人 チャイルドラインとちぎ
理事長 福本 佳之

I

チャイルドラインとちぎが受けた電話

2022年1月～12月

本報告書は、全国統一フリーダイヤルで他県の実施団体と連携して電話を受けているため、「Ⅰ. チャイルドラインとちぎが受けた電話」と「Ⅱ. チャイルドラインとちぎがオンラインで受けた子どもの声」「Ⅲ. 栃木県の子どもがフリーダイヤルにかけた電話」「Ⅳ.子どもの声から」に分けて作成しました。

栃木県内からの電話は優先的に「チャイルドラインとちぎ」に着信しますが、話し中の場合は、全国どこかのチャイルドラインにつながるようになっています。

チャイルドラインではあえて性別を聞かない場合も多く、年齢については受け手の判断でデータに反映しています。長期的にみると、小学生の割合が減り、高校生の学齢の電話が増えていると感じます。思春期の年齢層の子どもたちに認知され認められてきたならうれしいことです。

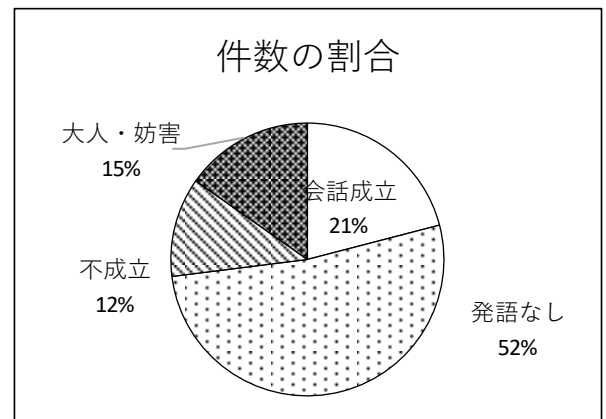
電話開設状況

- 実施日 2022年1月～12月
 毎週月曜日・金曜日・第2日曜日・第3土曜日
 16:00～21:00を3シフト制で実施
 全国キャンペーン参加 8/28
- 人 数 受け手 62人 年間延べ 851人
 支え手 16人
- 開 設 年間日数 127日
 開設時間 635時間 (2回線)
 年間件数 6,894件(会話成立1,704件) ※大人・妨害電話を除く
 1時間平均約11件(会話成立3件)
 1件あたりの平均通話時間17分

1. 通話の概要

総着信件数 8,133件(大人・妨害を含む)

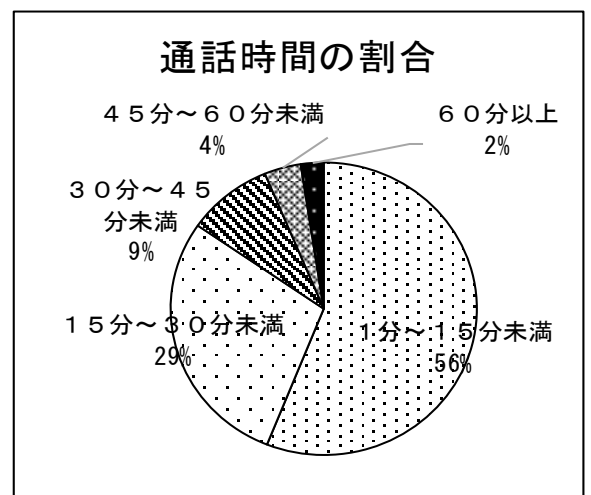
	件数	通話(分)	平均通話	件数の割合
会話成立	1,704	29,154	17.1分	21%
発語なし	4,234	2,776	0.7分	52%
不成立	956	1,958	2.0分	12%
大人・妨害	1,239	3,621	2.9分	15%
全体	8,133	37,509	4.6分	100%



2. 通話時間(会話成立)

会話成立のうち通話時間では1分～15分未満は56%で一番多くなっています。

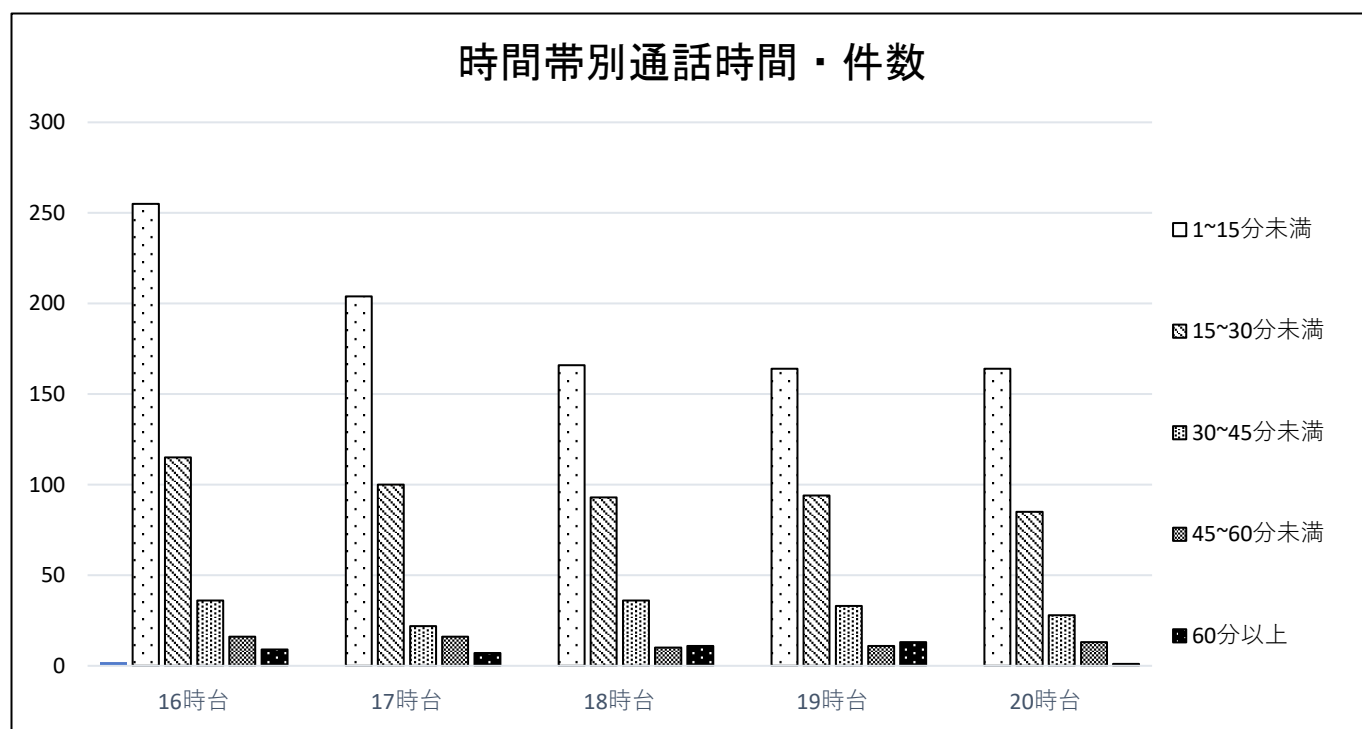
通話時間	件数
1分～15分未満	955
15分～30分未満	487
30分～45分未満	155
45分～60分未満	66
60分以上	41
合計	1,704



3. どの時間帯にかけられているか

時間帯によって大きな差はありませんが、その中でも 16 時台の電話件数が最も多く、平均通話時間は 19 時台が長くなっています。

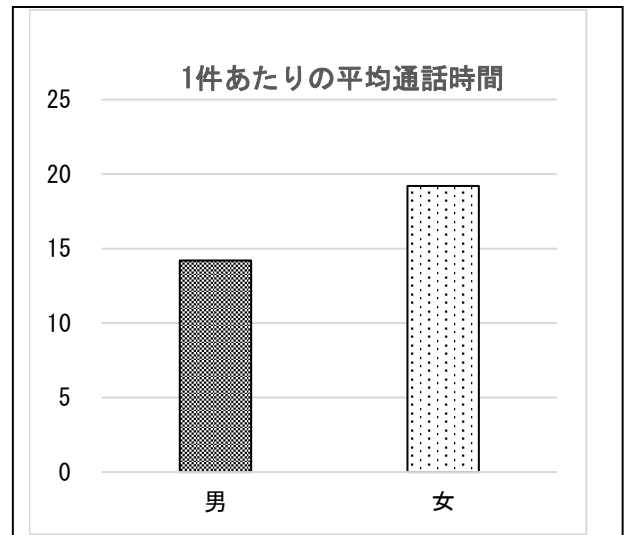
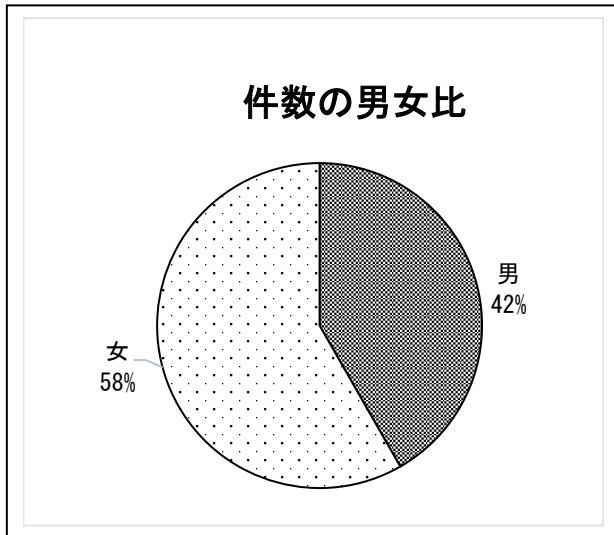
時間帯	通話件数	時間(分)	通話平均(分)
16時台	433	7,203	17
17時台	349	5,578	16
18時台	316	5,720	18
19時台	315	5,938	19
20時台	291	4,715	16
合計	1,704	29,154	17



4. 性別、学齢

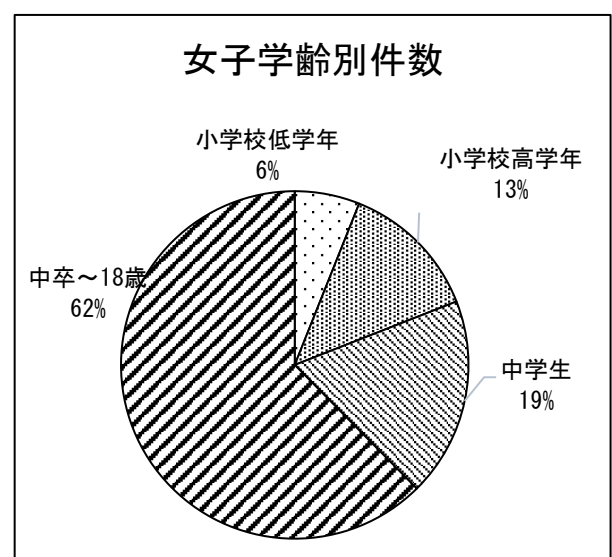
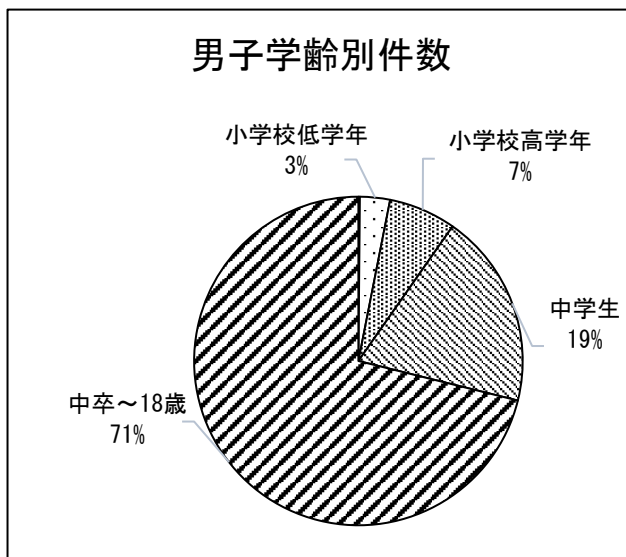
(1) 通話時間・件数の男女比

かけ手の性別をみると女子の割合が多く、1件あたりの通話時間の平均についても女子のほうが長く話されています。



(2) 学齢別件数の男女比

かけてきた子どもの学齢では、中学卒業から18歳までの割合が女子男子共に高く、男子は小学生の割合が少なくなっています。年齢に関しては内容などで受け手が判断することもあり大まかな枠組みととらえています。



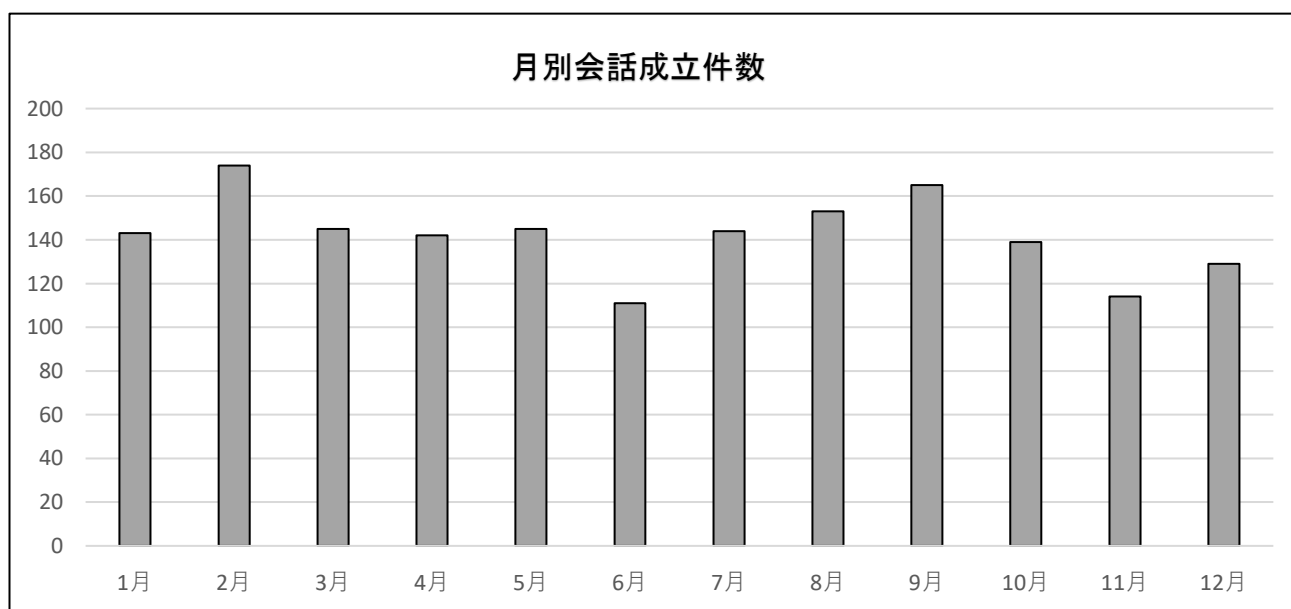
5. 月別件数と通話時間の推移

無言や一言などの会話不成立などを除き、月平均の会話成立件数は142件です。年間635時間開設しており、1時間あたりの平均通話件数は約3件です。

1件あたりの平均通話時間は約17分です。開設時間1時間あたりの平均通話時間は2台の電話で受けているため51分になります。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
会話成立	143	174	145	142	145	111	144	153	165	139	114	129	1,704
不成立	257	359	288	332	372	277	344	423	330	530	338	384	4,234
無言	59	72	59	74	89	58	83	112	111	99	63	77	956
大人(妨害)	72	71	72	88	125	81	129	138	117	126	110	110	1,239
総 着信	531	676	564	636	731	527	700	826	723	894	625	700	8,133

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
日/時間	10/50	10/50	10/50	11/55	11/55	10/50	11/55	12/60	11/55	11/55	10/50	10/50	127/635
通話件	143	174	145	142	145	111	144	153	165	139	114	129	1,704
通話・分	2,639	2,857	2,397	2,469	2,698	2,001	2,591	2,469	2,880	2,117	1,872	2,168	29,154
時間(約)	44	48	40	41	45	33	43	41	48	36	31	36	486



会話件数はカード配布時期にも一時的に増えることもあるので一概に判断できませんが、進路決断時期の2月、夏休み明けの9月に増えているととらえています。

6. どんな内容の電話か

男女別主訴別通話件数

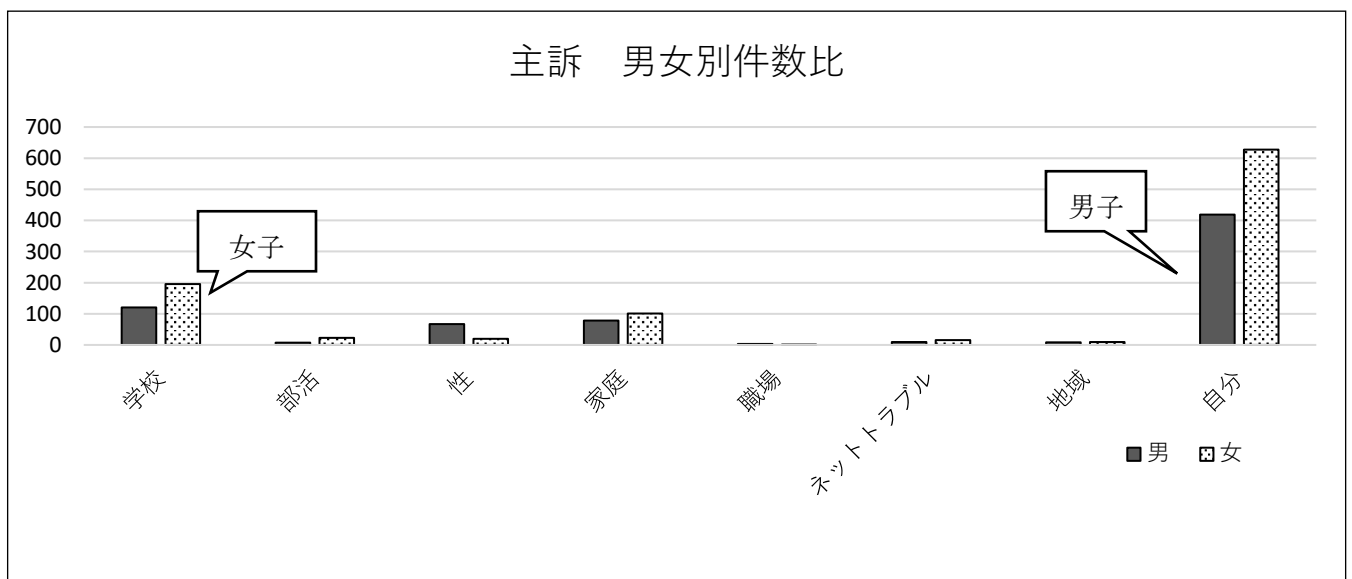
	学 校 フリースク ール	部 活	性	家 庭	職 場	ネット トラブル	地 域	自 分	合 計
男	120	7	67	78	3	9	8	419	711
女	196	23	20	101	1	16	9	627	993
合計	316	30	87	179	4	25	17	1046	1,704

男女別主訴別時間(分)

	学 校 フリースク ール	部 活	性	家 庭	職 場	ネット トラブル	地 域	自 分	合 計
男	1,590	125	1,027	1,371	63	112	107	5,721	10,114
女	3,366	439	480	2,478	11	326	108	11,835	19,041
合計	4,956	563	1,507	3,849	73	438	215	17,555	29,154

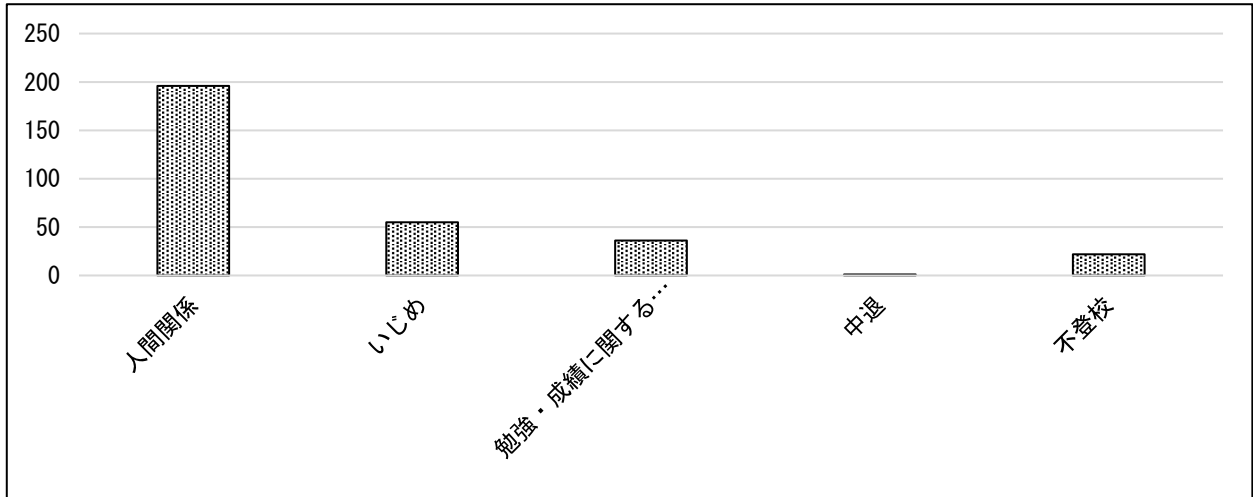
(1) 主訴別・男女別件数と通話時間

男女ともに「自分」に関する内面の悩みが多く、生きづらさを訴える声が特徴的です。「学校」「家庭」「部活」等の悩みに共通するのは、他人の評価を気にして、自分の存在に自信がもてず、常に周りの人に気遣う姿です。自分の性に違和感をもつ子どもたちの声も年々多くなっています。社会のジェンダー意識が広まり、声をあげることができるようになったのでしょうか。「虐待」については、丁寧に話を聴く中でやっと話せるようになる場合が多く支援に繋げることの難しさを感じます。

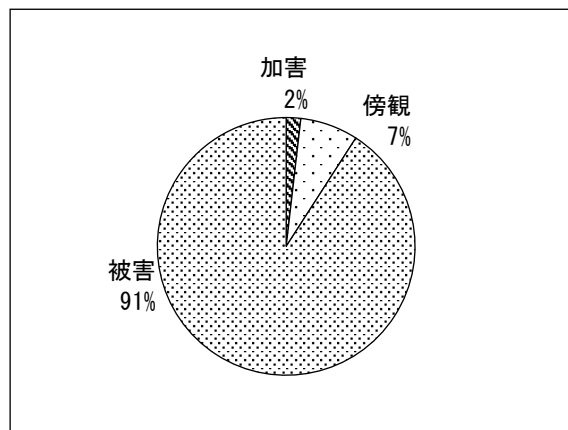


(2) 主訴別・詳細

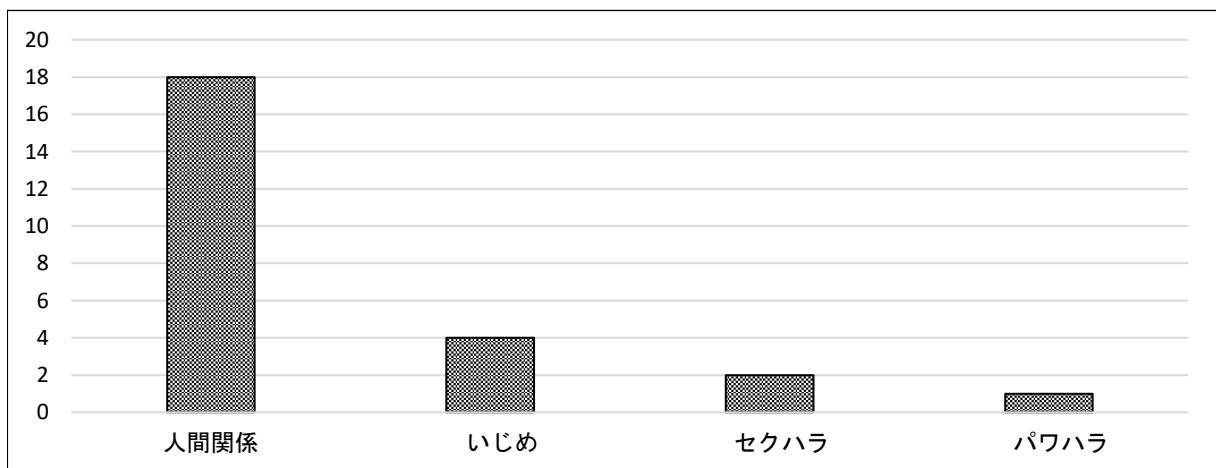
① 学校・フリースクールでのこと



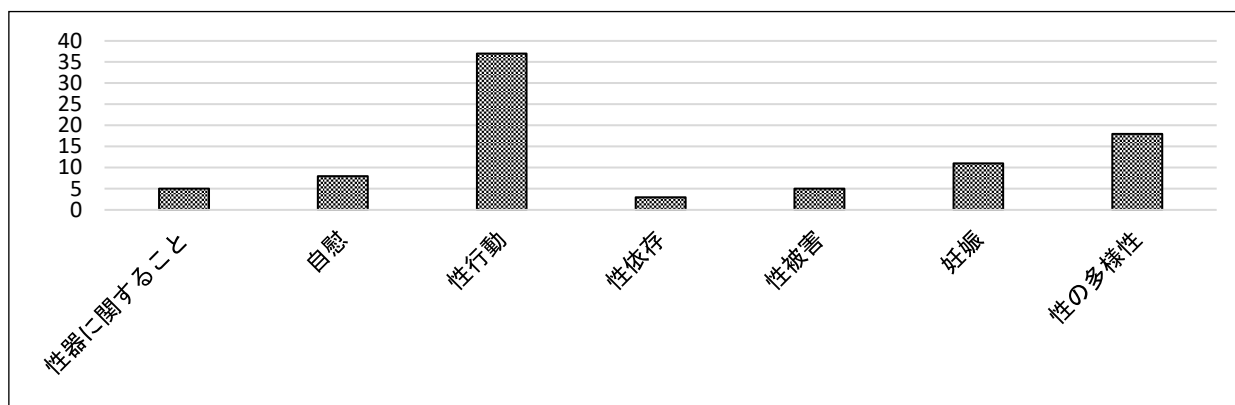
※学校・フリースクールでのいじめに関して



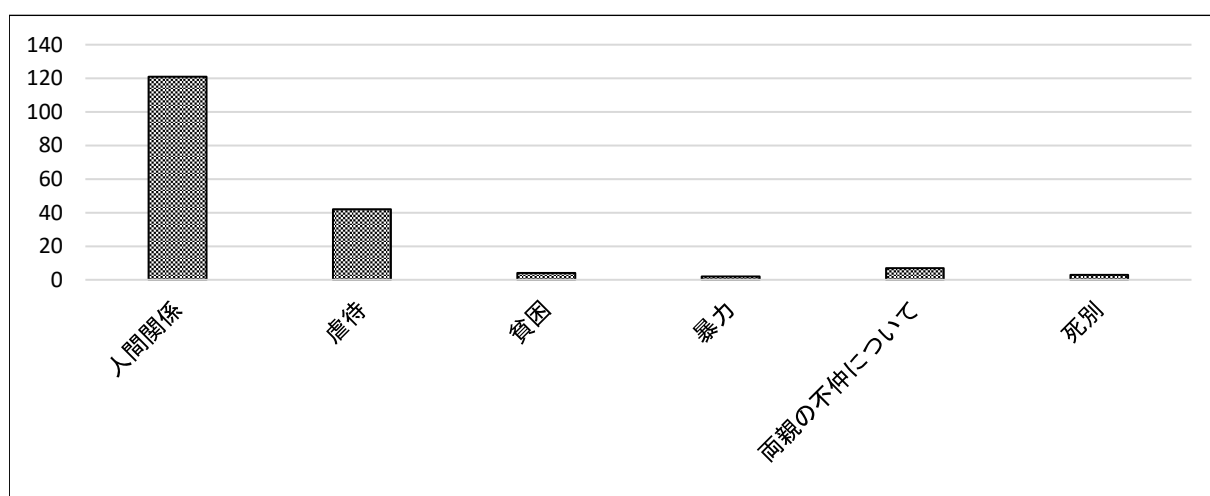
② 部活でのこと



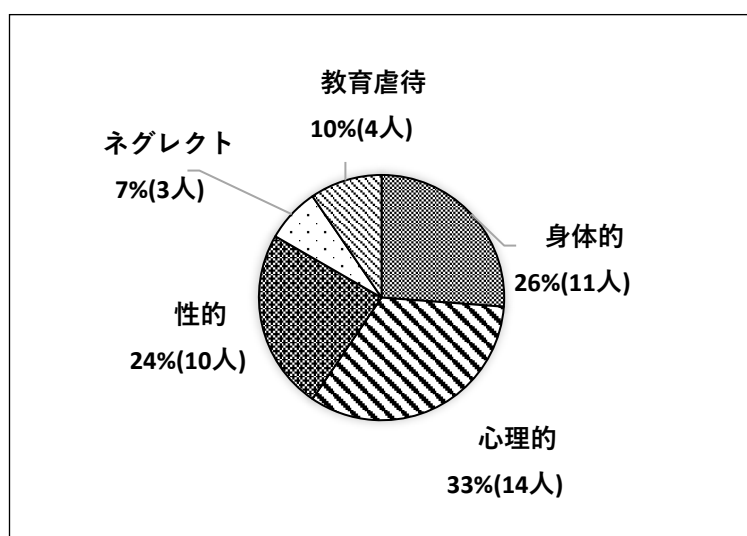
③性に関すること



④家庭でのこと



※家庭での虐待に関して

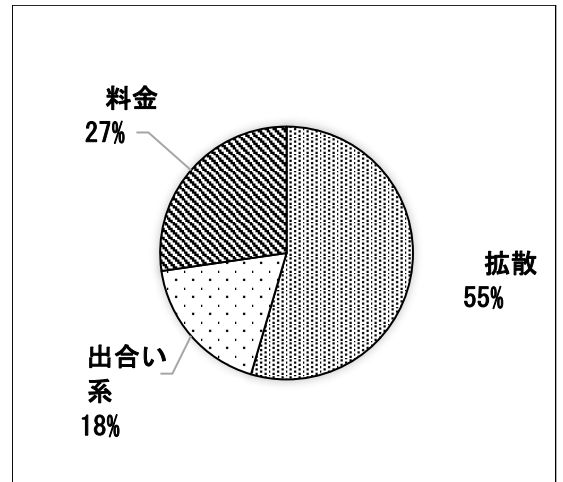
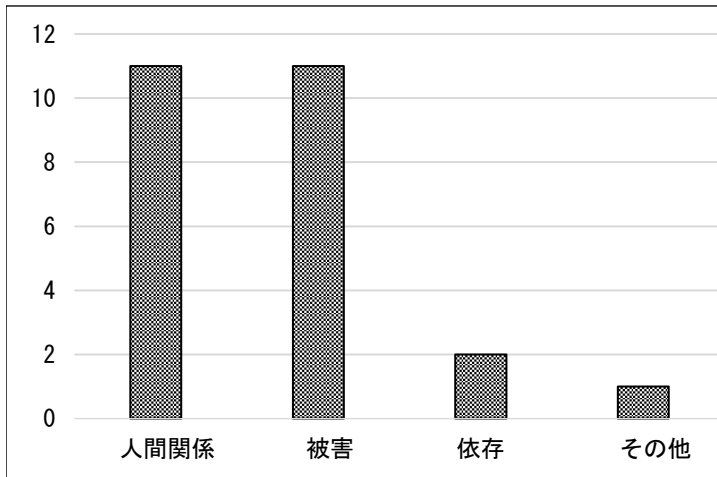


※虐待の関係性(誰とのことか)

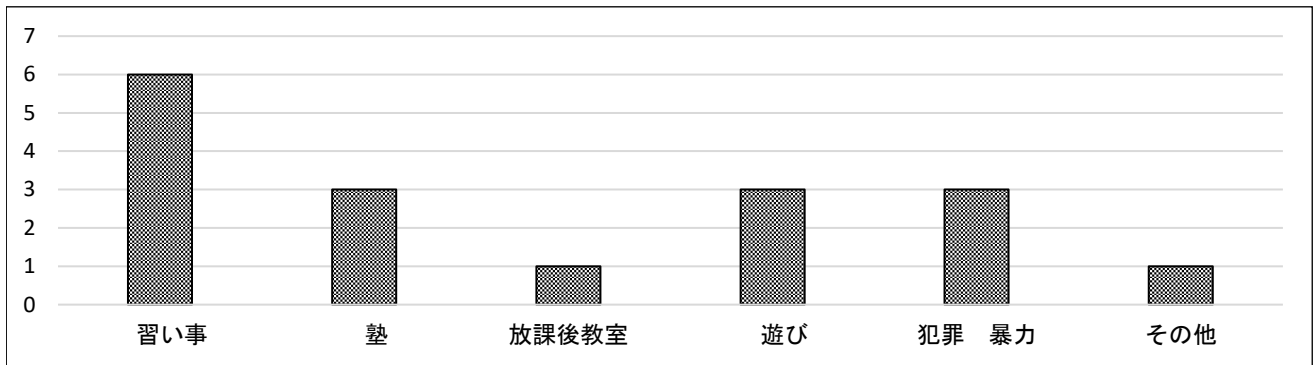
関係性	件数
実父	7
実母	25
養父	3
養母	3
友人 知人	2
自分自身のこと	3
合計	42

⑤ ネットトラブルに関すること

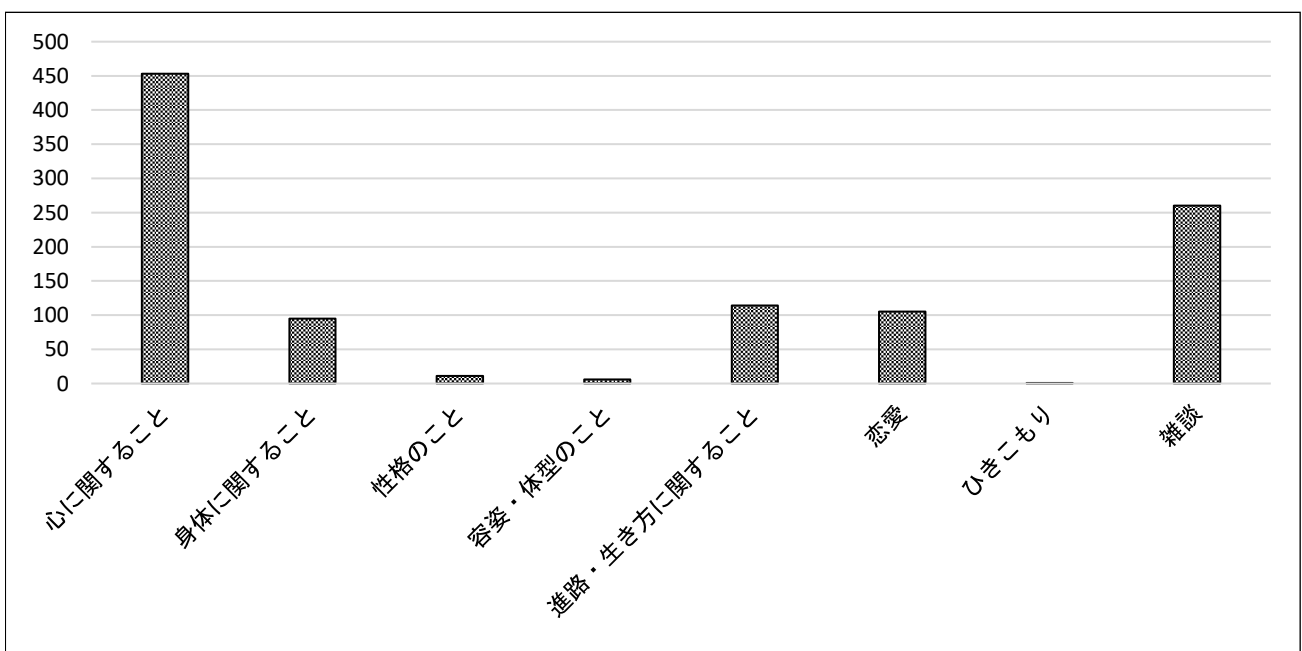
※ ネットトラブル被害 (内訳)



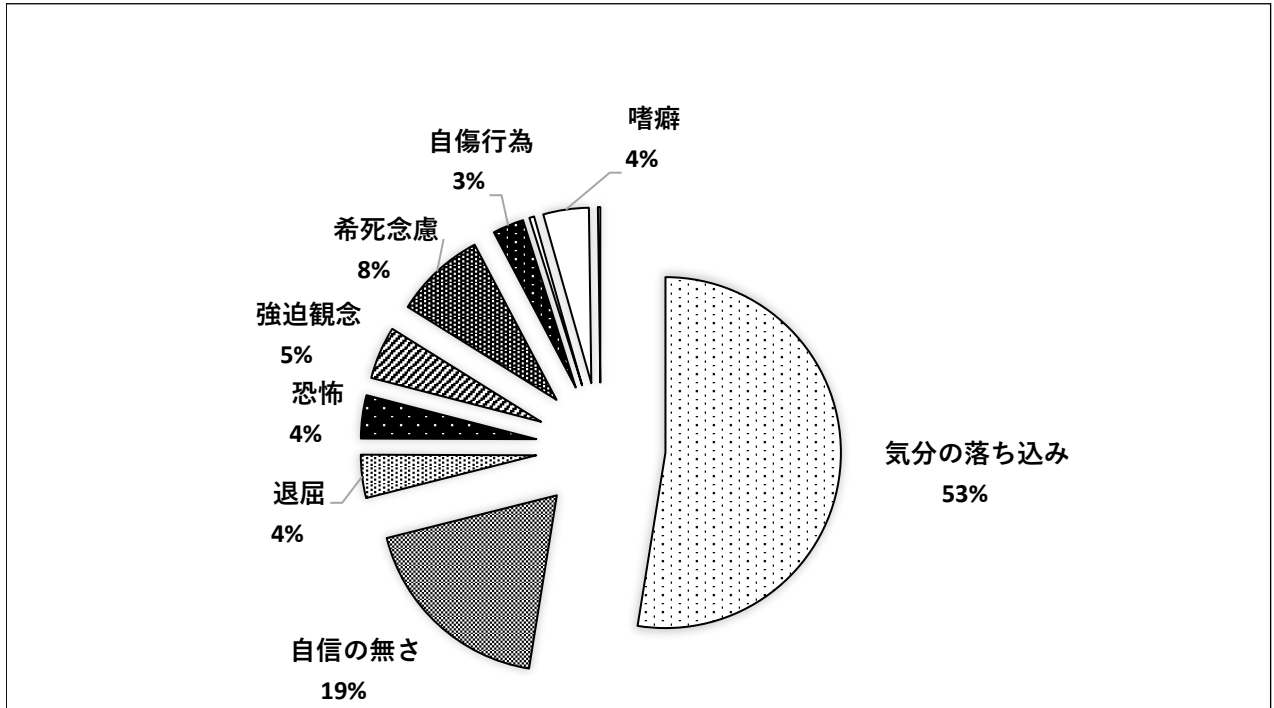
⑥ 地域でのこと



⑦ 自分のこと



※



7. 動機・関係性・気持ち

① 電話をかけた動機

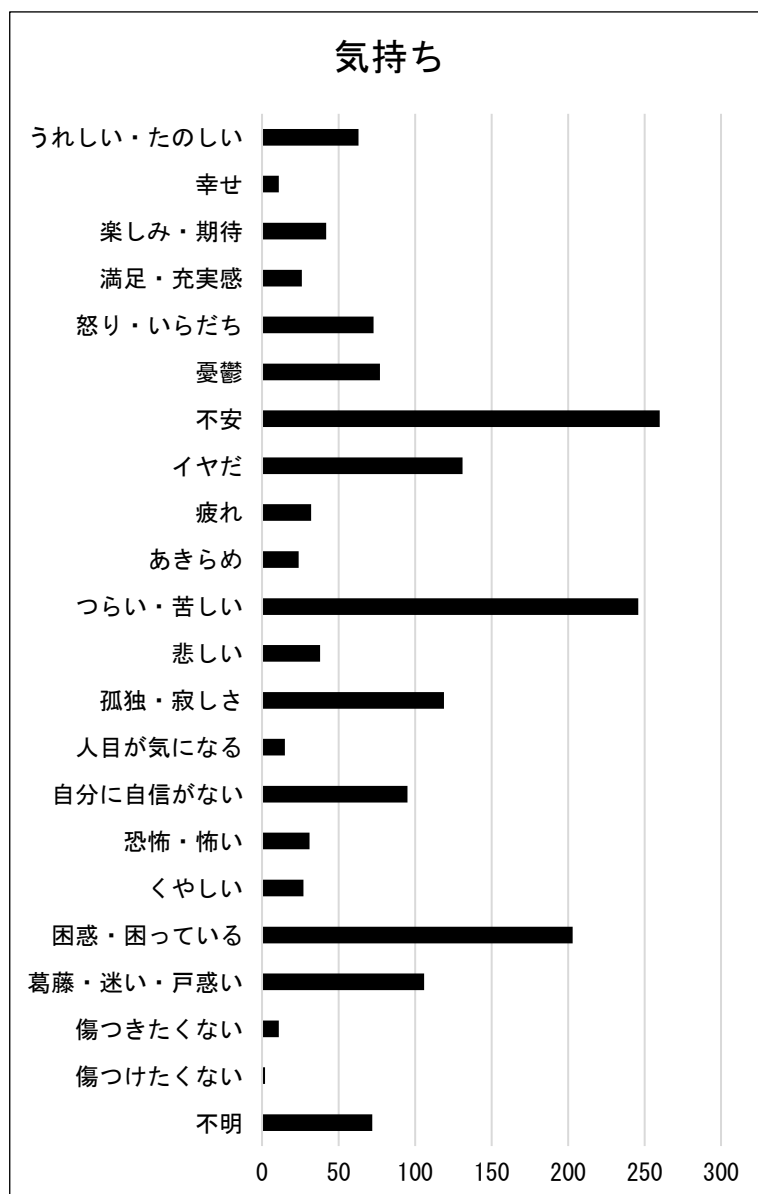
どの年齢でも「聴いてほしい」が多くを占めます。ゆっくりと聴いてもらうことで、子ども自身の中で問題を整理し先を考えることができ、やってみようという力がわいてきます。「答えがほしい」という電話でも、子ども自身の解決力を信じ寄り添います。「誰かとつながってほしい」では、話す相手のいない子どもたちの寂しさが感じ取れます。

	話を聴いてほしい	答えが欲しい	繋がってほしい	お試し	社会資源情報	実際に動いて欲しい	チャイルドラインについて	合計
未就学	1	0	0	0	0	0	0	1
小学低	58	12	7	4	0	0	0	81
小学高	136	24	11	2	0	0	0	176
中学生	255	35	21	6	1	0	1	320
～18歳	922	82	107	7	0	0	0	1,124
不明	2	0	0	0	0	0	0	2
合計	1,374	153	146	19	1	0	1	1,704

② 誰との関係なのか

関係性	件数
友人・知人	240
恋人	22
先輩・後輩	8
同僚	2
実父	41
実母	97
養父	4
養母	8
きょうだい	17
義理のきょうだい	1
祖父	2
祖母	1
先生	34
顧問・指導者	5
近所の人	8
施設職員	2
知らない人	8
自分自身のこと	1,203
その他	1
合計	1,704

③ どんな気持ちでかけたのか



II

オンラインで子どもの声を聴く

※ チャイルドラインとちぎが受けたデータから

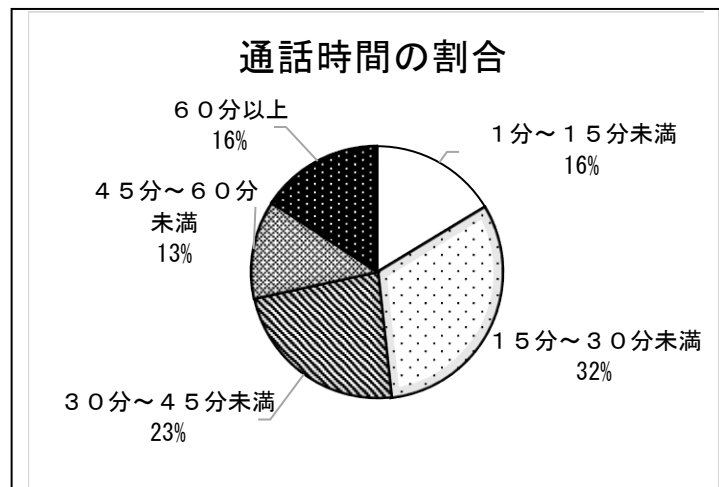
- ・ 実施日 2022年1月～12月
第1・第3木曜日(3台)・第2金曜日(1台)
7月より第2木曜日を追加
16:00～21:00を2シフト制で実施(3台)

※全国キャンペーンに参加 8/23・8/30
- ・ 人数 受け手 24人 年間延べ276人 支え手9人
- ・ 開設 開設日数 45日 開設時間 225時間×1台～3台
件数 605件
通信時間 約369時間 (会話成立約268時間) 1件平均37分

1. 通話(通信)時間

30分以上の通信が多く、1時間を超える場合もあり電話との違いが明確です。

通信時間	件数
1分～15分未満	99
15分～30分未満	193
30分～45分未満	141
45分～60分未満	77
60分以上	95
合計	605

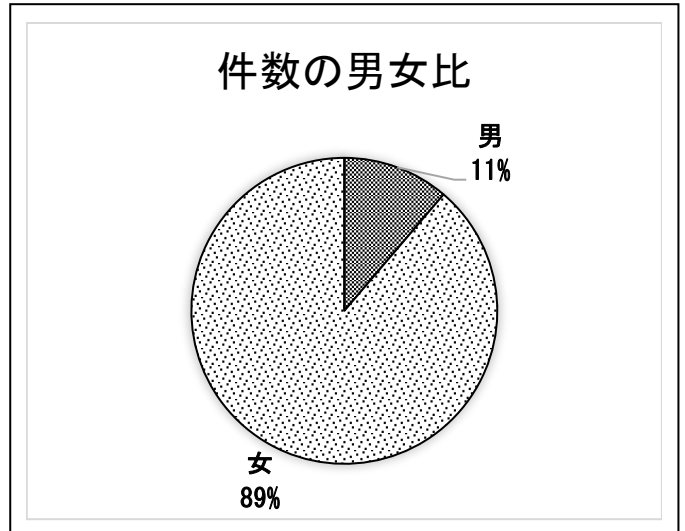


2. 性別、学齢

(1) 通信時間・件数の男女比

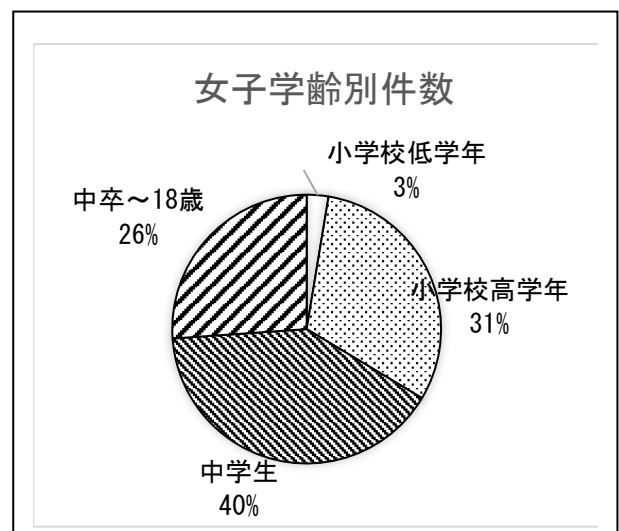
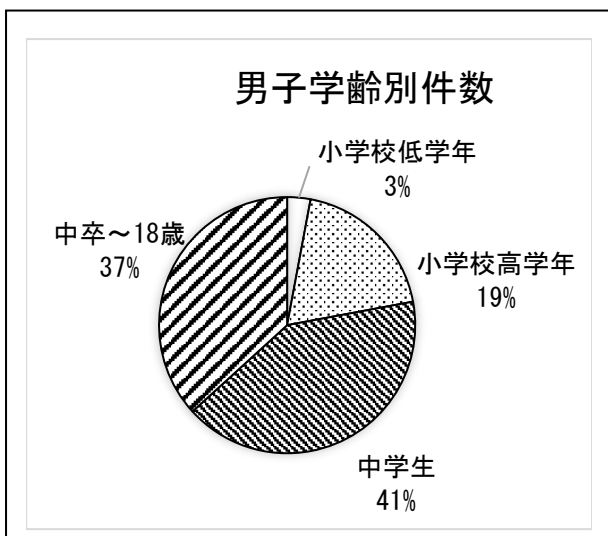
性別をみると 89%と圧倒的に女子が多いですが、平均通信時間にはそれほど大きな差はないようです。

性別	件数	通信時間	平均通信時間
男	68	2,397	35
女	537	19,698	37
合計	605	22,095	36



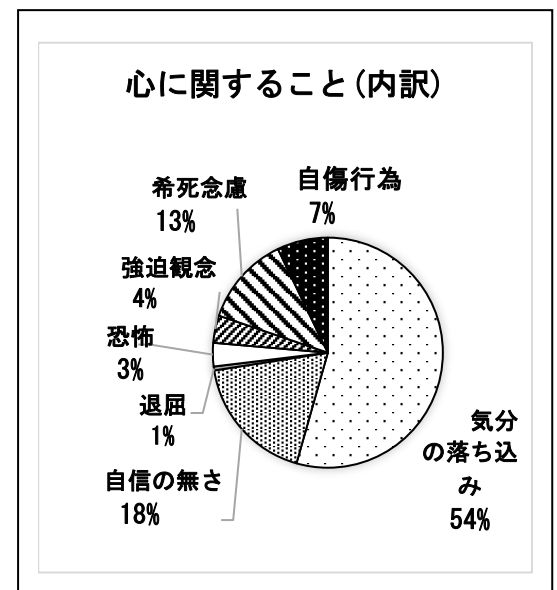
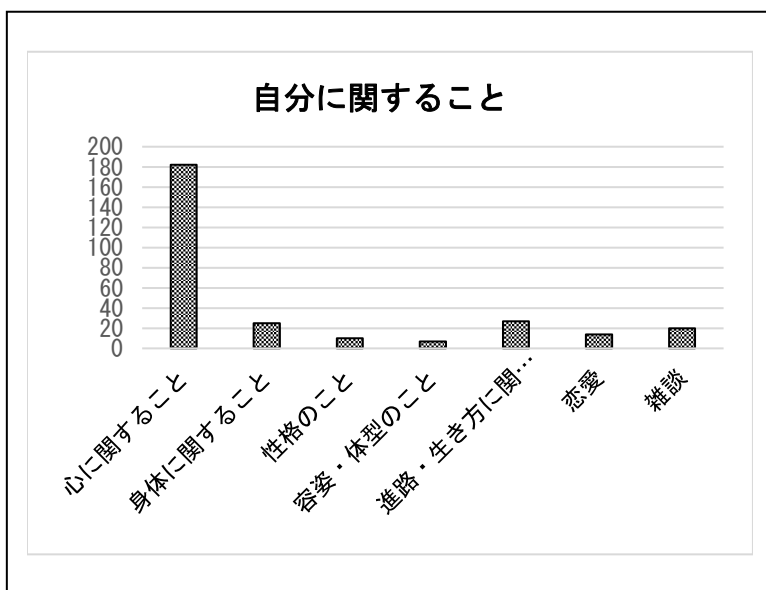
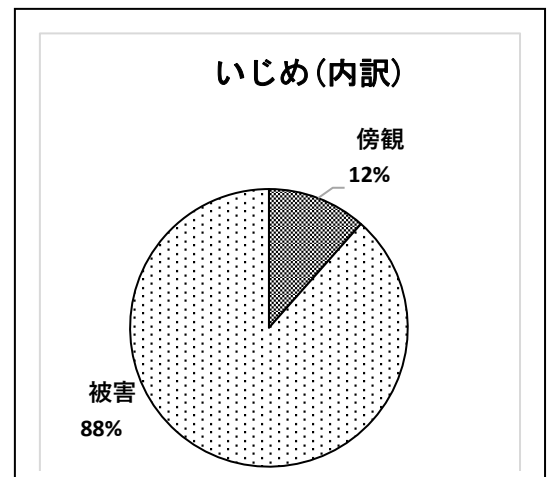
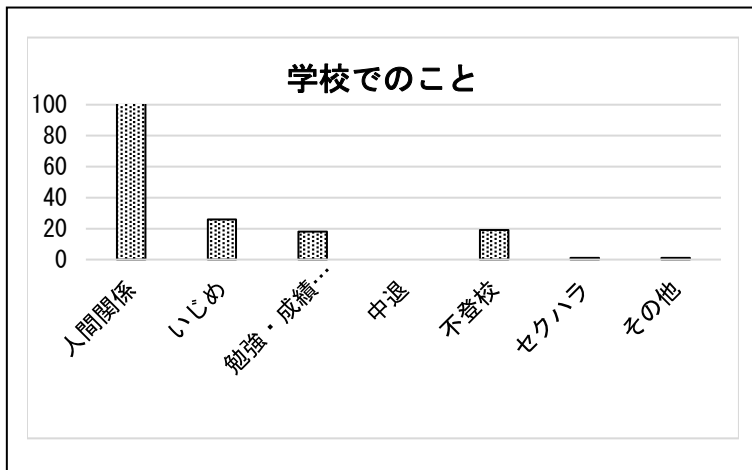
(2) 学齢別件数の男女比

かけてきた子どもの学齢では、オンラインでは男女共に、小学校高学年や中学生の割合が多くなっています。年々小学生の割合が多くなっている理由として、ネットに触れる機会の低年齢化や学校で配布されたタブレットの影響もあるのかと感じます。



件数	学校・フリースクール	部活	性	家庭	職場	ネットトラブル	地域	自分	合計
男	15	3	2	6	0	1	2	39	68
女	187	8	15	72	1	6	2	246	537
合計	202	11	17	78	1	7	4	285	605

時間(分)	学校・フリースクール	部活	性	家庭	職場	ネットトラブル	地域	自分	合計
男	624	84	46	264	0	37	77	1,265	2,397
女	6,522	274	531	2,836	44	187	52	9,252	19,698
合計	7,146	358	577	3,100	44	224	129	10,517	22,095



III

栃木県の子どもがかけた電話

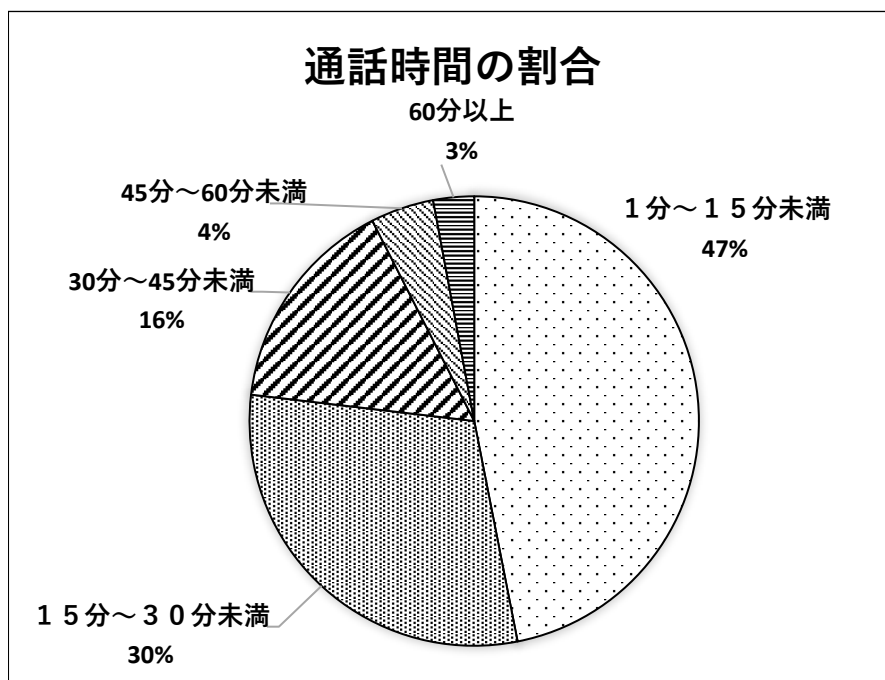
2022年1月～12月

(他県の実施団体が受けた電話が含まれる)

1. 総着信件数 796件 (1ヵ月平均 66件)
 通話 307件 (1ヶ月平均 26件)
 総通話時間 103時間
 1ヶ月平均約8.6時間 平均通話時間 約20分

着信内訳	件数
会話成立	307
不成立・無言	489
総着信	796

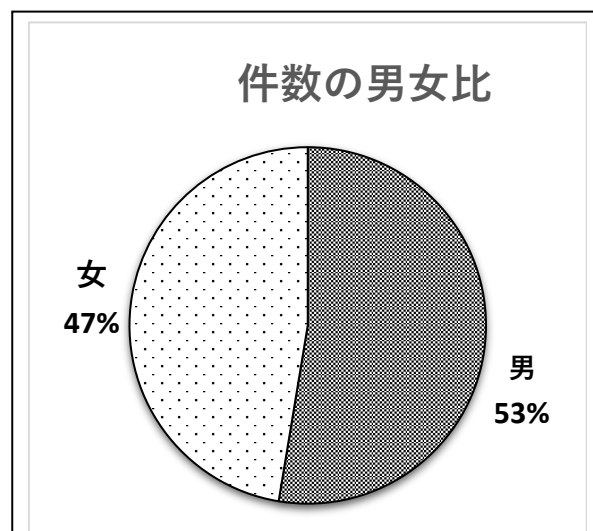
通話時間	件数
1分～15分未満	144
15分～30分未満	92
30分～45分未満	48
45分～60分未満	14
60分以上	9
合計	307



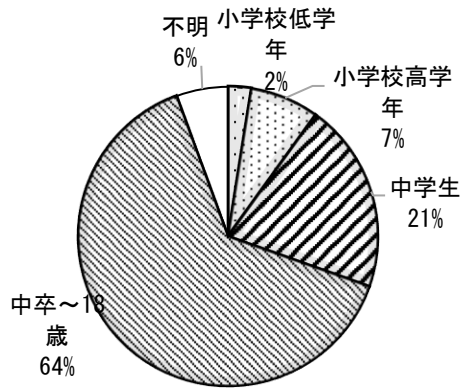
2. かけてきた子どもの学齢と男女比(栃木県の子ども)

1件あたりの通話時間は男子が約17分、女子が23分と女子のほうが長く話されています。
 かけてきた子どもの年齢では、男女ともに中学卒業～18歳の電話が多くなっています。

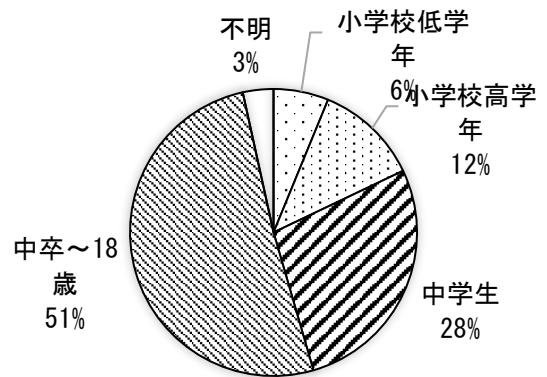
性別	通話件数	通話時間(分)	1件あたりの通話時間(分)
男	161	2,824	17
女	145	3,314	23
不明	1	30	30
合計	307	6,168	20



男子学齢別の割合



女子学齢別の割合

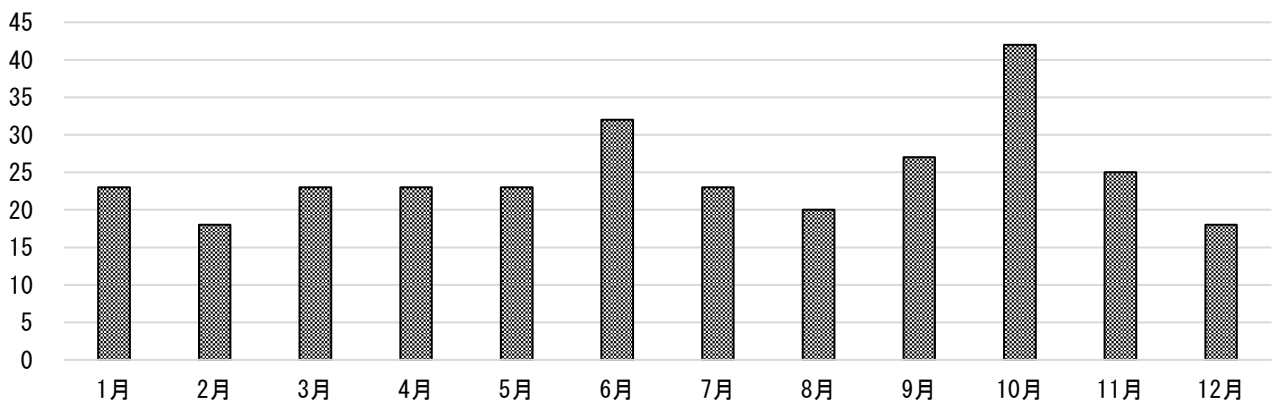


3. 月別件数と通話時間の推移

栃木県の子どもたちにフリーダイヤルの番号を知らせるカードの配布は、県内市町ごとにローテーションを組んでいます。年度切り替えの2月から5月は配布出来ていないので件数が少なくなると考えられます。6月と10月の件数が多く「自分」に関する内面の悩みが多かったようです。

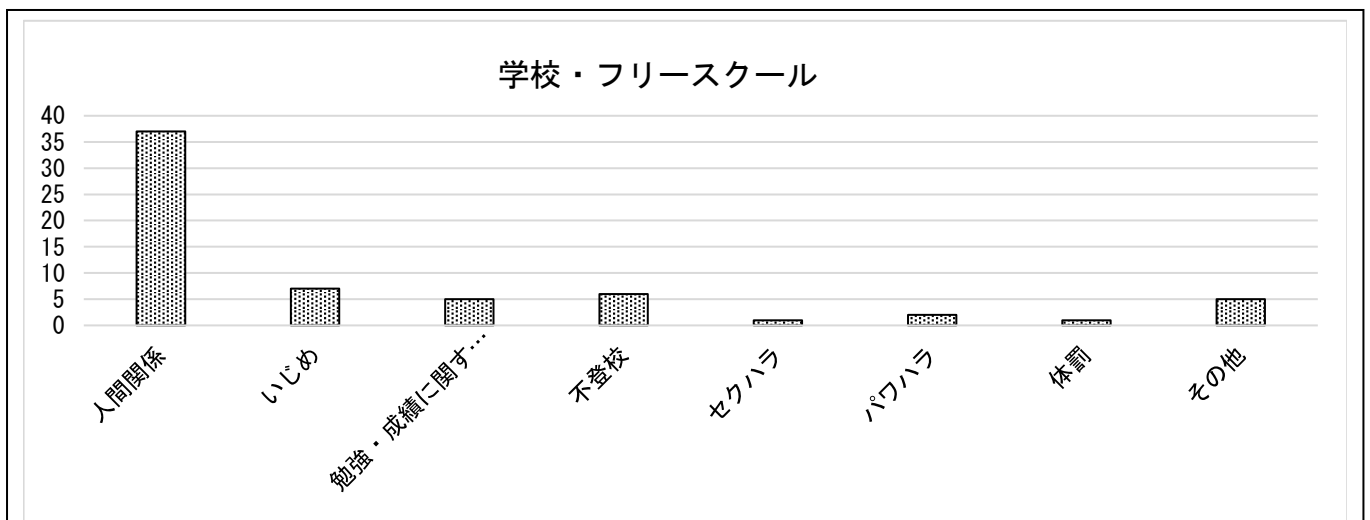
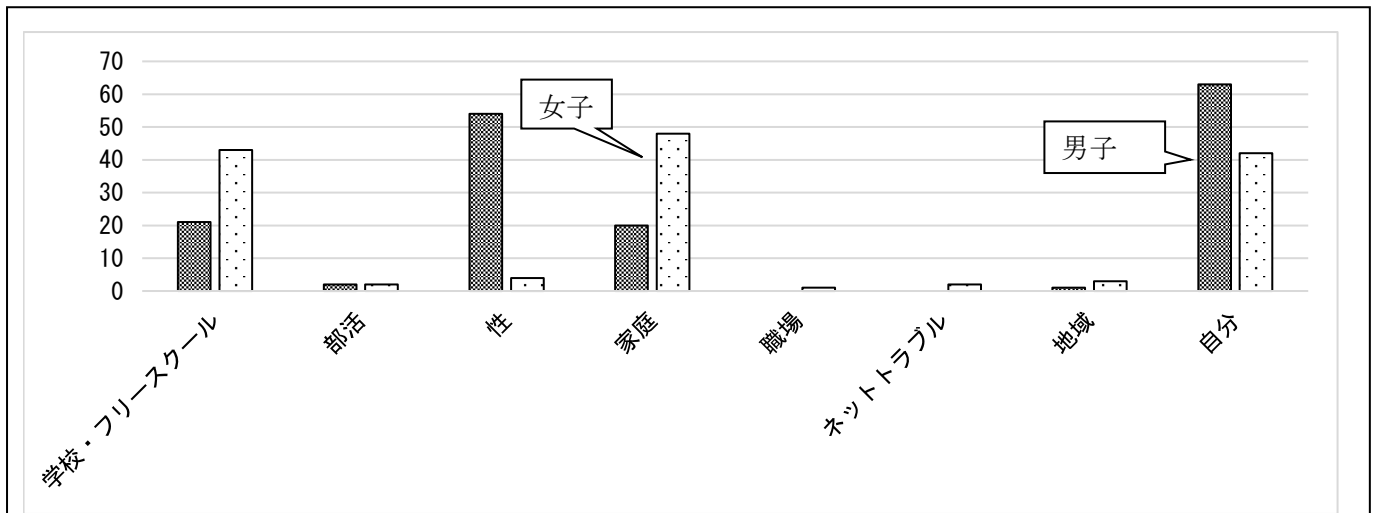
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間計
会話成立	23	18	23	23	23	32	23	20	27	42	25	18	307
無言不成立	64	31	19	32	48	50	41	41	38	58	46	31	489
総 着信	87	49	42	55	71	82	64	61	65	100	71	49	796
通話時間(分)	552	320	379	499	778	798	435	401	511	793	458	244	6,168

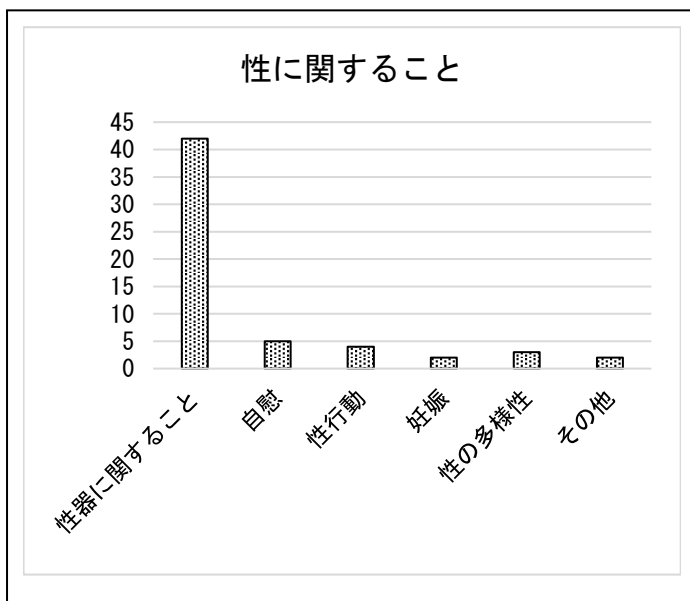
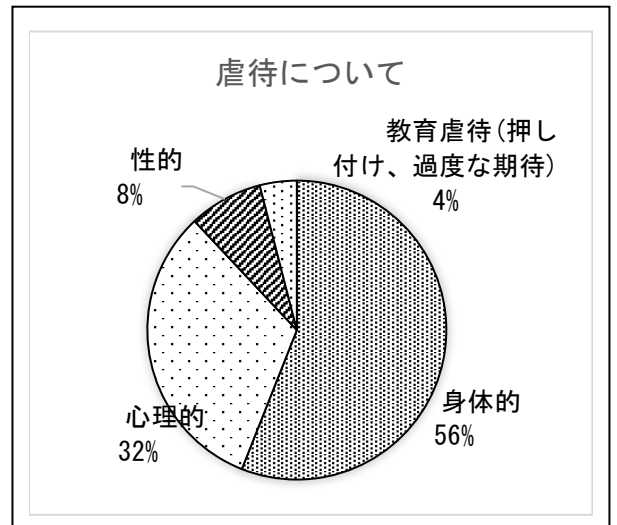
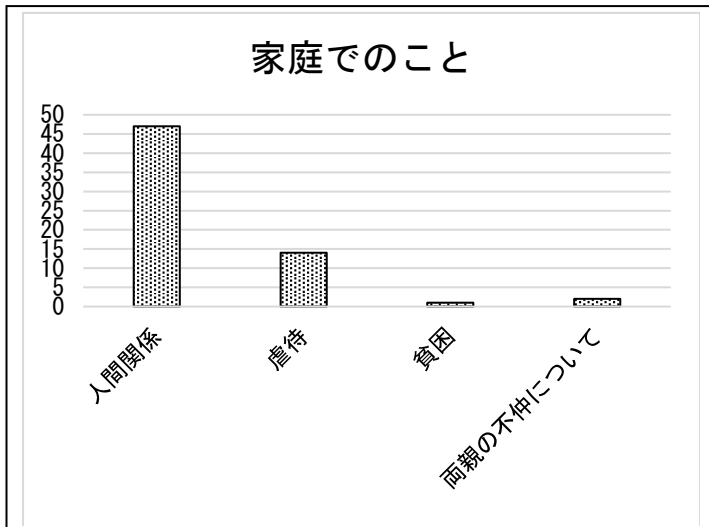
会話成立件数 (栃木県の子ども)



4.どんな内容の電話か(栃木県の子ども)

男女ともに「自分のこと」が多く話されており、次いで「学校でのこと」になっています。男子は「性に関すること」も多く話されています。学校・部活・家庭・ネットトラブルと場面は違っても話の内容は人間関係について多くなっています。





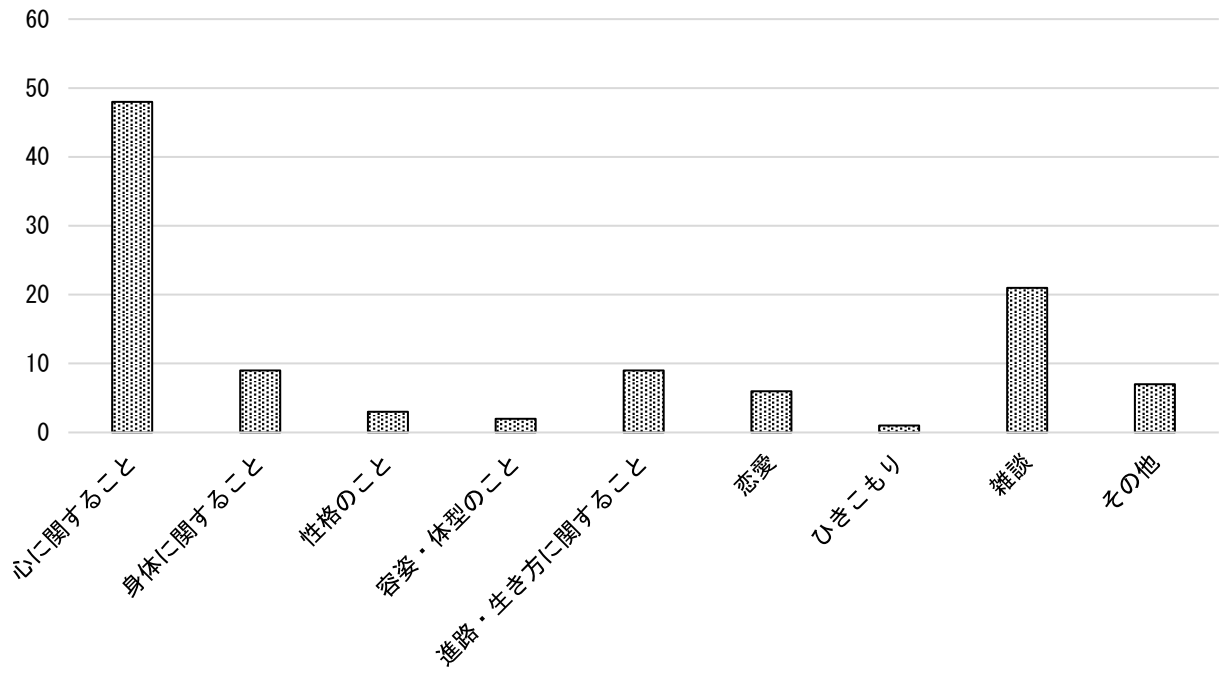
虐待の内訳

内容	件数
身体的	3
心理的	8
性的	2
教育的	1
計	14

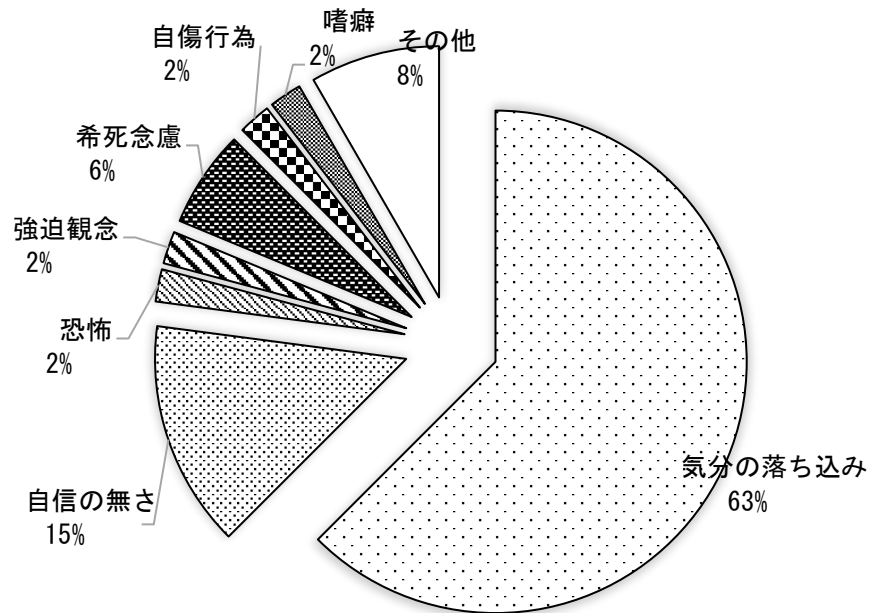
性に関しては、チャイルドラインとちぎが受けた全国の電話では「性行動」や「性の多様性」が多くなっていますが、栃木県の子どもがかけた電話では「性器に関すること」が突出して多くなります。原因として一定のリピーターや大人が妨害電話としてかけている可能性があります。

虐待については、件数は多くはありませんが、件数では測ることのできない重大な問題を含んでいると考えられます。

自分のこと



心に関すること



IV

子どもの声から

※プライバシーに配慮して内容は再構成しています。

メディアでは、毎日のように新型コロナウイルスの感染、そしてウクライナの戦火について報じられています。重大な社会的事件についても大きく報じられました。こうした社会状況のもとで子どもたちは何を考えているのでしょうか。チャイルドラインにも不安の声が届いています。

最近「性の違和感」について語ることがタブー視されなくなってきましたが、一人で悩み誰にも相談できないと思う子どもたちは多く、ネット検索の情報に惑わされることもあります。

自らを「発達障害」であるためにコミュニケーションが難しいと告白する子どもたちもいます。自己肯定感が持てずにいる子どもたちには周りの理解が必要だと感じます。

「貧困やヤングケアラー」が社会問題となっていますが、家族の問題は表面化しにくく支援の手が届かないもどかしさを感じます。

子どもたちは「SNS」を使いこなしているように見えて、基本的な安全教育が不足していると感じます。ネットを通して生まれた人間関係は危うく、安全の死角になることもあると気づいてほしいと思います。

また一方で「受け手がやさしい気持ち」になる電話もあります。新入生の不安、日常の遊び、将来の希望や夢を語る姿に癒され心の中でエールを送らずにはられません。

コロナ禍が落ち着いても

- ・卒業式にマスクを外すように言われたがマスクの生活が長いので顔を出すことになれていない。 中学
- ・友達と昼を一緒に食べてもマスクを外すのが嫌でお弁当も残してしまう自分の自信のなさが嫌。 高校
- ・重度障害の子もいる施設にいるがコロナでたくさん亡くなったことに向き合えないでいる。 高校

社会的事件の影響

- ・戦争のニュースを聞いて不安になる。怖くて、そのうち私たち殺されるんじゃないかって。 小高
- ・安倍さんの事件が衝撃的だった。自分も生まれた時から宗教団体に入れさせられている。 高校

性別の違和感を抱えて

- ・外見は男で心は女。制服や服装、薄着の時などがつらい。体育の授業の時は離れたトイレに行って着替えをする。 高校
- ・同性の子を好きになった。好きと言えないし、嫌と思われたらどうしよう。 中学
- ・クラスメイトの女子が性同一障害っぽくてみんなに避けられるようになった。自分は遊びたいがみんなの目が怖い。 小高

家族との関係、虐待

- ・両親が毎日殴ったりけったり、ケンカをしている。誰か止めてほしい。 小高
- ・お母さん怒っている顔が怖くて、小さいときから自分を出せないでいる。 中学
- ・親に過度に期待されていて、テストの点数が悪いとどなられる。頑張ってもほめてくれない。 小高
- ・毒母の対処方法を教えてほしい。過干渉で困っている。 高校
- ・お父さんが怖い。離れたいけど学校や見相に相談したらお母さんが死ぬと脅された。(性的虐待) 中学

心の問題や生きにくさを抱えて

- ・感覚過敏で人と上手くやっていけない。時々どっと疲れが出て寝込んでしまう。 高校
- ・自分はADHD。現実と夢の区別がつかない。人を殺す妄想をしてストレスを発散している。 中学
- ・統合失調症で毎日つらい。頑張っていない自分は価値がないと思うから。 高校
- ・大きな音が苦手。男子が大きな声で話すので頭が痛くなって震えてしまう。 小高
- ・考えすぎる性格で過去の失敗を思い返して死にたくなる。 高校
- ・いい子でいるようにしつけられてきた。いつも相手のことを優先して、疲れてしまった。 高校

貧困とヤングケアラー

- ・お母さんが夜仕事なので、妹の面倒をみて洗濯や食器洗いをしている。イライラしてお母さんに大嫌いと言ってしまった。 中学
- ・お金に困っていて両親がよくケンカをする。夜遅くまで仕事をしていて体を壊さないか心配。 中学
- ・アルバイトしたお金を親に取られてしまう。渡さないと「死ぬ」と脅される。 高校

誰にも話せないいじめ 学校のこと

- ・親に明日は学校に行くのかと聞かれる。学校を休むことはダメなこと逃げることなのでしょうか。 小高
- ・自分はよく笑うおバカキャラ。でも本当はそうではない。疲れた。 小高
- ・友達に嫌われたくなくて話ができない。どう返していいかわからない。 中学
- ・2年前にいじめにあった。その後人前に出るのが怖くなった。当時のことを思い出すと苦しい。 高校
- ・クラス替えがあって、友達と離れてしまった。グループができていてひとりぼっち。 中学
- ・自分だけ友だちがいない。自分なんて必要ないのかな。 高校

ネットでのこと

- ・お姉ちゃんがネット依存になっているかも。ネットがなくなったら死ぬと言っていた。心配 小低
- ・知らないうちにネットにさらされたら怖いと思うようになった。盗聴されたらと思うと怖い。 高校
- ・ネットに依存して勉強をおろそかにしたら母親が激怒した。子どもの人間関係も理解してほしい。 中学
- ・SNSを見ているとみんな楽しそうで孤独を感じる。 高校
- ・SNSで会ったことのない人に交際を求められた。 高校
- ・ゲームのアカウントを盗まれた。課金をした分も持っていかれた。悔しい。 高校
- ・友達の名前やプリクラを個人チャットで流してしまった。何気なくやっしまい後悔している。 高校
- ・SNSで知り合った人自分の父親くらいの年の人と会っている。悪いと事とわかっているが連絡が来ると会いたくなってしまう。 中学

やさしい気持ちで聴きます

- ・自分は何もできない。才能も特技もない。みんなそれぞれ持っているのに自分にはない。 中学
- ・大学に合格しました。これまで聴いてもらえてよかった。ありがとうございます。 18歳
- ・大縄跳びができない。 小高
- ・いやなことがあったあとに自分の機嫌を直すにはどうしたらいいですか。 小高
- ・一緒に下校している時、つかれちゃって、ゆっくり歩いたら友達が怒っちゃった。 小低

チャイルドラインとちぎのこれまで

2001年(平成13年)5月5日開設(毎週金曜日の15:00~23:00)

2007年(平成19年)5月から全回線フリーダイヤルになる。

2008年(平成20年)11月から全国統一フリーダイヤルで以後全国の子どもからの電話を受ける。

2010年(平成22年)チャイルドラインとちぎ設立10周年記念事業

2013年(平成25年)1月8日 認定NPO法人として認定(県文第236-1号)

2018年(平成30年)8月から月に1回木曜日にオンラインチャットで子どもの声を受ける

2019年(平成31年令和元年)5月から月に2回(第1・第2木曜日)にオンラインチャットを開設する。

2021年(令和3年)チャイルドラインとちぎ設立20周年記念誌を発行する。

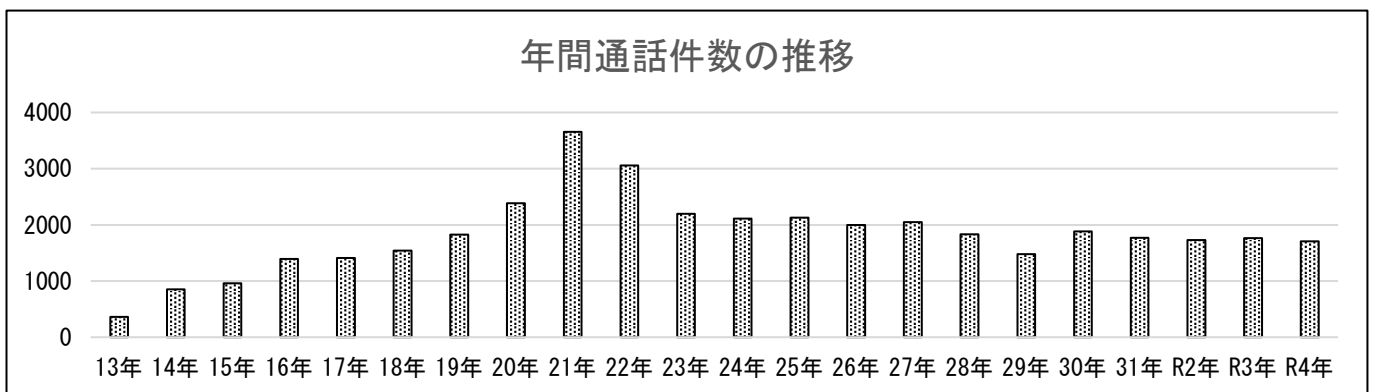
2022年(令和3年)7月以降オンラインチャットを第1第2第3木曜日・第2金曜日に開設

	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年
通話	362	851	958	1,396	1,413	1,544	1,828	2,387	3,655	3,059
無言・他	141	831	1,204	1,207	1,452	2,027	2,628	3,627	4,808	4,875
計	503	1,682	2,162	2,603	2,865	3,571	4,456	6,014	8,463	7934
通話時間	112	245	225	330	298	326	453	579	919	819

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年	R2年
通話	2,194	2,113	2,130	1,997	2,049	1,834	1,480	1,886	1,771	1,732
無言・他	4,620	5,235	5,897	7,383	7,522	8,014	5,764	4,857	4,246	4,704
計	6,814	7,348	8,027	9,380	9,571	9,848	7,244	6,743	6,017	6,436
通話時間	709	660	728	616	635	778	421	600	584	607

	R3年	R4年
通話	1,762	1,704
無言・他	4,773	5,190
計	6,535	6,894
通話時間	576	486

チャット	R2年	R3年	R4年
件数	317	411	605
通信時間	194	247	368



2022年 チャイルドラインとちぎの活動から

① 会員数

〈正会員〉 59人

〈支援会員〉

個人 64人

団体 21団体

② 理事 12名 ・ ・ ・ ・ 理事長：1名 副理事長：3名 ※ 監事：3名

③ 2022年度決算

収入 2,234,103円

〈主な内訳〉

会費	177,000円	(8%)
支援会費(寄付)	1,382,022円	(62%)
補助金・助成金	659,835円	(29%)
事業収入	15,243円	(1%)
その他	3円	(0%)

支出 2,194,445円

〈主な内訳〉

事業費	1,848,499円	(84%)
子どもの声を聴く事業	1,315,329円	
啓発事業	533,170円	

管理費 345,946円 (16%)

※ 人件費 601,812円 (34%)



2023年チャイルドラインとちぎ年次報告

2023年5月発行

発行者 特定非営利活動法人チャイルドラインとちぎ

〒320-0837 栃木県宇都宮市弥生 1-6-3

Tel.028-614-3253

E-mail info@cltochigi.org URL://cltochigi.org